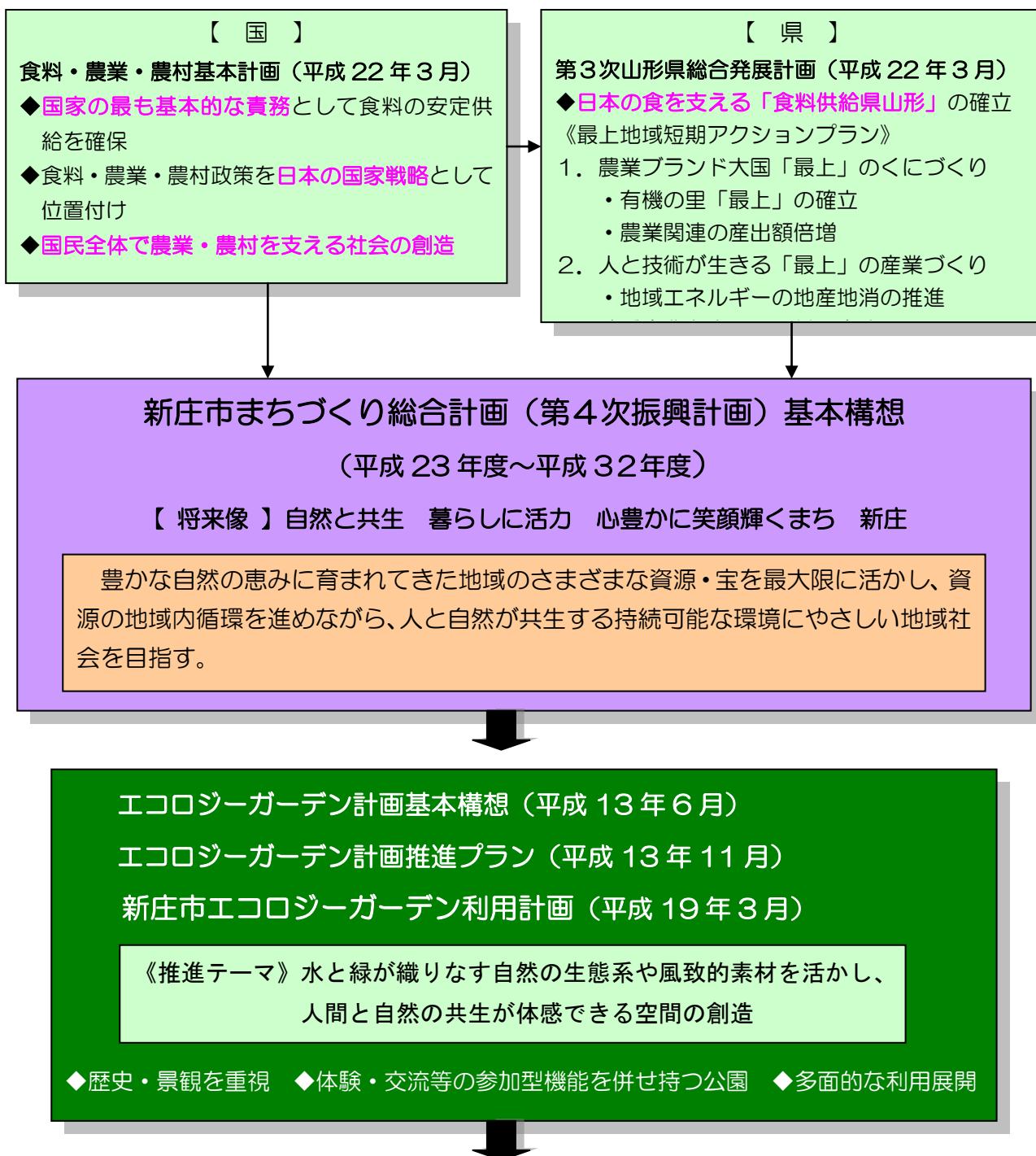


I 利用計画の基本方針

1. 基本的な考え方



本計画は、「新庄市まちづくり総合計画」基本構想における市の将来像の実現を図ることを基本とし、市民の様々な夢や思いが寄せられた過去の構想・推進プラン・利用計画の考え方をできる限り継承していきます。また、利活用されていない北側エリアについては、農業振興や農的交流の拡大を大きな柱とし、市民がより利用しやすい環境を段階的に整備しながら、市民団体・グループとの連携や民間活力の導入なども積極的に取り入れ、自然や人とのふれあいの中で住みやすさが実感できる空間を創造していきます。

《計画実現のための4つの柱》

最重点施策

(1) 地域農業振興の拠点づくり

試験場の成り立ちや自然豊かな環境的特性は、本市が農業を基幹として発展し、農業が市民生活と深い関わりを持ってきたという歴史性を示しています。また、基幹産業としてけん引してきた農業が、将来的にも持続的発展を遂げていくことが、さらなる発展につながっていくものと考えられます。そのため、本計画では、農業振興及びそれに関連する農的利活用を計画の「核」として、後継者育成や有機農業推進の拠点としての活用を図るなど、意欲ある農業者が創意工夫を活かした農業を目指していくことができるよう、多様な取組みを支援する施策を展開していきます。

また、入口である「農」と出口である「食」を一体的なものとして捉え、食と食文化を守るという観点のもと、県が提唱する『有機の里「最上」づくり』を地域全体で推進し、将来的にブランド化につなげていくなど、新庄・最上から「食の安全」を発信していくための拠点としての機能を果たしていくことを目指します。

- ① 農業後継者育成の拠点づくり
- ② 有機の里「最上」の拠点づくり
- ③ 安全・安心な「食」の発信

(2) 歴史文化資源と景観の保全

蚕糸試験場及び東北農業試験場新庄試験地の歴史性や施設自体が持つ貴重な資料性、さらには本研究機関の開設に貢献された市名誉市民平塚英吉氏の業績等をクローズアップすることで歴史文化資源としての価値を高め、見学や学習の場としての活用を図っていきます。

また、エコロジーガーデンの象徴的な景観である建物群や、やすらぎのある風合い豊かな空間を醸し出している豊富な樹木を保全するために必要な措置を講じ、良好な状態で後世に継承していきます。

- ① 歴史文化伝承機能の充実
- ② 建物や樹木等の適正管理

(3) 市民が憩い・学べる農業公園づくり

駐車場やトイレ、水施設、休憩所などの公園機能を段階的に整備するとともに、子どもから大人まで楽しめる空間を創り出し、市民をはじめとする来園者の憩いの場としての活用を図ります。

また、展示室を利用した学習活動や農業実践塾の圃場を活用しての農業体験等を通して、市民が楽しみながら学べる農業公園づくりを目指していきます。

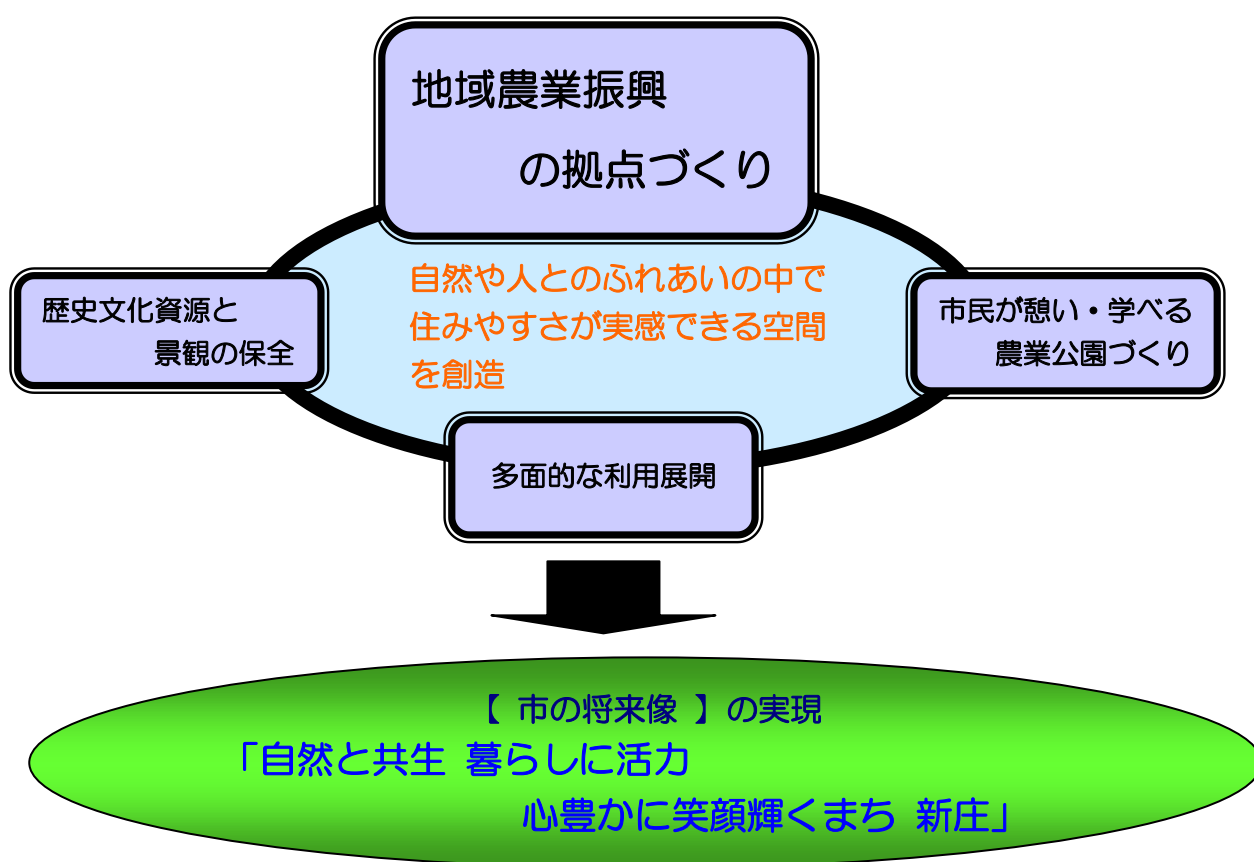
- ① 公園機能の整備
- ② 施設概要やイベント等の情報発信

(4) 多面的な利用展開

計画を推進するにあたっては、市民活力及び民間活力との多面的な関わりの中で推進していくものとし、その中から市民間の交流や農業者間の交流、都市との交流など、様々な交流が育まれていくようなふれあいの場としての活用を図っていきます。

また、民・産・学をはじめとする多様な実施主体の様々な提案に対し、他施設との連携を図りながら柔軟に対応することで、エコロジーガーデンの可能性を広げていきます。

- ① 市民活力の導入 ② 多様な実施主体との連携 ③ 市民活動の支援



2. 計画の性格

国・地方の厳しい財政状況から、大きな財政負担を必要とする中・大規模な事業については、補助制度等を活用できる機会を捉えて実施していく必要があります。そのため本計画は、**エコロジーガーデン内を推進エリアとする短期的な構想を主体とし、具体的な事業を展開していくための利用計画**とします。

また、中・長期的な構想については、補助事業等の活用の可能性を視野に入れるとともに、市民の意見や民間活力を取り入れながら、段階的にその実現を図っていきます。

3. 計画の期間

利用計画の基準年次は平成22年度とし、平成24年度までの**3年間の計画**とします。